

第 81 回目の GIS News! です



鳥海山 (種まき爺さん)

庄内では、鳥海山に「種まき爺さん(残雪の形)」が現れると田植えが始まり、田植えが終わると同時に庄内湖が姿を現します。鳥海山の山頂から庄内平野を眺めると湖の様に見えるのです。山頂まで登るにはアイゼン・ピッケルが必要ですが、ブルーラインを利用すれば、アルピニストでなくても壮大な庄内湖を見ることが出来ます。

さて、今回は GIS を利用した本格的な情報発信について紹介致します。

「水害の発生時にネットで避難誘導」

全国初の試みとして、神奈川県平塚市と国土交通省京浜河川事務所は、市内を流れる川で水害が発生した場合に、被害状況や避難先をインターネットで知らせるサービスを始めました。GIS を用いて、水害が発生したときに地域別に被害をリアルタイムで表示し、住民は自分の住所か郵便番号を入力すれば、浸水の深さや最も近い避難施設を知ることができます。まずは、洪水氾濫シミュレーションにアクセスしてみてください。

<http://www.keihin.ktr.mlit.go.jp/disaster/simulation/index.htm>

「WebGIS を利用した各種の情報提供」

石狩市では、今まで庁舎内のみで利用されてきた GIS 情報をインターネット上で公開する新たなサービス (WebGIS) を開始しています。地籍調査成果を基に、用途地域・施設案内・防災・公共交通網などの生活に密着した情報提供が行われ、地理情報はより市民生活に身近なものとなっています。しかし、情報を利用するには、閲覧用ソフトのインストールが必要であること、ISDN の場合はダウンロードにかなりの時間 (約 20 分程度画面が空白になることあり) がかかることなど、スムーズに情報を得るには高速ネットワーク回線の接続が必要かもしれません。

<http://raster.ishikari-gis.jp/gis/index.html>

当初 GIS は、コンピュータでデジタル地図を作成したり、保存したりするツールとして考えられていた時期がありましたが、近年の GIS はコンピュータの技術的進歩 (1. コンピュータとその関連技術の進歩 2. コンピュータネットワークの普及と情報通信システムの進歩 3. 多くの地図データのデジタル化と普及) により、さまざまなデータ (情報) をデジタル地図上に表示することが可能となり、またそれは住民サービスの向上にも利用され始めています。

次回の GIS News!

今回は、2004 年 6 月 7 日発行予定です。よろしくお付き合いください!

Geographic Information System

記事：協同組合山形県地理情報センター 佐藤まゆみ 発行日：2004 年 5 月 24 日